

# 商学部における貿易実務関係 の科目の変遷

朝岡良平

## 1. ま え が き

1. 早稲田大学商学部創立70周年を機会に今日までの記録をもとに商学部史を編纂する計画がたてられたのは昭和46年(1971)2月で、これまでに3巻が刊行された。<sup>(1)</sup> 本稿では、この企画にもとづいて、商学部における貿易——特に私経済的研究分野である貿易実務関係の科目の変遷・発達の跡をたどってみたい。

2. 先ず手元の利用可能な資料にもとづいて、明治37年(1904)から昭和23年(1948)までの商業・貿易関係の科目を表示し、科目と担当者についてその移り変りを述べる。昭和24年の新制度移行後については、毎年度発行される商学部要項によって容易に知りうるので、これを省略した。早稲田大学商学部における貿易実務ばかりでなく、わが国における当該分野の研究の先鞭をつけ、これを今日の水準に発展させたのは早稲田大学名誉教授上坂西三博士である。上坂・貿易実務の出現する以前の約20年間においては、商業自体がやっと学問的研究の対象として認識されうる程度に発達した段階から専門領域別に細分化しはじめたのであって、いわば商業学の生育期にあたる。この頃になると、貿易取引も19世紀における居留地の商館貿易をようやく脱し、委託貿易時代を経て漸次直接貿易に移る一般的気運がみられる。このような時代において、早稲田大学商学部の基礎を固め、その発展に貢献された諸先生の一人として小林行昌

博士をあげることができる。

3. 商学部の学科配当科目の推移を一瞥したあと、小林行昌および上坂西三両博士の著作年譜を掲げる。また最後に掲載した洋書文献目録は明治23年(1890)から昭和10年(1935)までの間に発行された貿易取引に関連する分野の図書で、発行年度別に分類した、両博士の著作目録とともに、これによって、海運、保険、金融、貿易取引等に関する研究の発達・細分化が大体何時頃から始まったかを知ることができるし、また各年度における関心の移り変りをそこに見ることができる。以下の記述においては人名に敬称を省略する。

## 2. 貿易取引の発達と影響

1. 明治35年(1902)に東京専門学校は創立20周年の祝典を挙げ、また早稲田大学と名称を改めたのであるが、この年に商科大学(商学部)を新設することが決定され、翌年4月に先ず商科に進学する者のために高等予科が開設され、さらにその翌37年(1904)の商科大学始業式によって、わが商学部が正式に発足したのである。欧米において商業に関する高等教育の必要性が痛感されるようになったのは19世紀後半のことである。1851年にロンドンのハイド・パークで開催された英国博覧会は、イギリスの急速な経済的繁栄の背後にある工業技術と貿易実務の貢献度について見学者の注意を喚起し、イギリスが長年にわたって蓄積した知識体系を後進国が吸収するには学校教育が必要であると考えさせたのであろう。その翌年にあたる嘉永5年(1852)にベルギーのアントワープ高等商業学校(Institute Supérieur de Commerce d'Anvers)が設立され、これを範として明治29年(1896)8月に学則改正により東京高等商業学校が、また明治36年(1903)には神戸高等商業学校が設けられた。またドイツにおいても、高等商業学校(Handelshochschule)がライプチヒ(1898)、ケルン(1901)、ベルリン(1906)、マンハイム(1908)等各地に設立された。<sup>(2)</sup> アメリカにおいて最も古い商学部といわれているのは、ペンシルヴァニア大学の Wharton School of

Commerce and Finance で、明治14年(1881)に開設された。それから約20年後にシカゴ大学、カリフォルニア大学、ダートマス大学、ニューヨーク大学などに商学部が設けられるにいたる。

2. 主として今世紀に入ってから諸大学に商学部が設置されるようになったのは、時勢の要求によるものであろう。19世紀末までに各国の近代的統一化が行われ、工業技術の進歩と交通・通信の発達は商業の分化を促し、取引形態が店頭取引から隔地取引に移行するに従って取引量は急速に増加した。商業経営の規模が大きくなり、商取引が複雑になれば当然、従来のように単に実地の経験に頼るだけでは不十分となりまた危険でもあるので、実業界においては学識のある有為の人物を多く必要とするようにならう。19世紀後半においては、特にイギリスが工業技術と国際貿易の両翼をもって国運の発展目覚しく、世界の海上を支配し国際市場の中心をなしたので、当時の後進諸国はいずれもイギリスの商慣習や商業技術を見習い、新しい知識の吸収に努めた。前記のように、各国に高等商業教育が19世紀末から今世紀初頭にかけて勃興したのは、ひとつにはこのような理由によるのである。

3. しかし、後述するように、早稲田大学商学部が開設された当時の学科配当表を見ても、商学各論として売買、税関、海運、保険等が設けられており、商業文(英語)、商業会話(英語)のほかに外国貿易論という講座名があるけれども、特に貿易実務に関する学科はない。前記のアントワープ高等商業学校のカリキュラムを見ても、主として外国語の授業に多くの時間をかけ、商業実践として外国語の通信文、商品学、商業地理、税関規則、商法および海商法の比較などで、特に貿易取引に関する学科目はない。<sup>(3)</sup> 明治29年8月の学則改正時における東京高等商業学校の本科学科課程表および明治36年に開設された神戸高等商業学校のそれを見ても、大同小異であり、早稲田大学商科の方が専門科目において細分化されて精密であり、やはり貿易に関する科目は特にない。<sup>(4)</sup> 高等商業教育が時勢の要求によるものであると同じように、実業界の進歩に伴

ってカリキュラムの内容も変化し、学問の発達によって専門領域が分化してゆくのは当然である。

4. 明治時代におけるわが国の貿易の発展は、日清戦争の戦勝の影響のあらわれた明治30年(1897)頃からその増加が目立つけれども、同32年(1899)に内地雑居令の施行により居留地制度が終りを告げ、翌33年(1900)には金本位制が確立されて、ようやく直接貿易へ移行する気運がみなぎってきたのであって、それまでは、いわゆる商館貿易時代で、横浜や神戸などの居留地在住の外国商人と引取屋(買手)または売込屋(売手)と称する日本商人との取引で、わが国の商人が直接行った輸出入額の割合は極めて小さかった。一般に、日本商人によって輸出入取引が直接行われるようになったのは日露戦争以降のことであるといわれるが、それでもまだ貿易港を中心とする商館貿易の比重は高く、その頃までの貿易の概念は、異国産の商品に関する外国商人との取引であり、厳密には国内売買である。このような取引形態の時代においては、売買そのものは国内の店頭取引と基本的に変わりなく、外国人と外国語で直接商談できることが大切なので、外国語(商業会話、商業文)、商品知識、商業地理、商法及び税関法規などが貿易実務にとって主要科目であった。

世界の貿易額は19世紀の後半にいたって増加の勢いを増すが、今世紀に入って更に急速に拡大した。これは主要国における工業化の進展にともなう原料・食料の需要と工業製品の供給が増加したことにその一因を見ることができけれども、他の原因として、貿易経営上、19世紀後半に発生した新しい取引慣習を見落とすことはできない。今日の貿易取引の大部分は、F. O. B. または C. I. F. 契約によって行われている。F. O. B. 契約がイギリスの判例にあらわれたのは1812年であるが、海運業の分離・発達にともなって、これから変則的な F. O. B. や異質的な F. O. B. 慣習が派生し、さらにこれから C. I. F. という新しい取引慣習が生まれて、1862年にこれがイギリスの判例にあらわれる。ベルギーのアントワープ商事裁判所においては、1859年にすでにイギリス商人の間に

C. I. F. という慣習が存在する事実を認めていたといい、またフランスのルアン市およびレンヌ市では1862年に C. I. F. 売買の判例が示されており、さらにこれより遅れてドイツでは1872年にハンブルグ商事裁判所に初めて C. I. F. の判例があらわれた。<sup>6)</sup>

19世紀後半にイギリス商人の手になる新しい国際商慣習にもとづいてその後の世界貿易が急速に拡大するのであるが、このような新しい取引慣習が発生し普及するにいたった背後には、海上運送・海上保険・荷為替手形および荷為替信用状などの近代的商業制度の発達を必要とする。わが国におけるこれら近代的諸制度の整備はようやく明治維新(1868年)後に着手されたのであり、これらを背景として本格的な隔地取引形態の貿易が日本商人の手によって行われるようになったのは第一次大戦後である。貿易取引が量的に発展し、また質的にも複雑な組織と制度にもとづいて営まれるようになり、これが大学における研究・教育の対象と考えられるようになったのもその頃である。貿易取引が発達し、制度的に複雑になると新しい研究が行われ、このような新しい知識が必要になると、これを体系的に教授するための科目が新設される。後掲の商学部における貿易関係の科目の推移を示す表と著作・文献年譜を年代順に眺めると、貿易の背景となる諸制度の分化・発達の過程がそのまま反映されているように思われる。

### 3. 貿易関係の科目と担当者

1. 次の第1表は早稲田学報、早稲田大学報告その他の資料にもとづいて作成したものである。これらの資料のうち、大正元年(明治45年)から昭和元年(大正15年)の間に発行された早稲田学報は各学年別の学科配当表を掲げて、担当者を示していない。前記のごとく、本稿では、小林行昌および上坂西三の両教授が担当した科目を中心に、貿易関係の諸科目の分化し発達していった軌跡を画こうとするものである。したがって、売買論、倉庫論、商業学、商業政策、

商学経済等は、税関論や外国為替論とともに小林行昌の担当した科目であるところから第1表に載せた。売買論または商業学の中で外国売買が論じられ、また商業政策において外国貿易の理論が講じられたのである。

2. 貿易関係の科目として、開校時から商業英語が置かれている。商業会話(英会話)とともに、外国商人と取引を行うときに必要なので、貿易実務に関する各分野の中で、商業通信文に関する書物が一番早く現われたのではなかろうか。<sup>6)</sup> 明治37年から大正9年までは、商業作文(英語)という科目で設けられており、小林行昌も最初この科目を担当した。大正7年(1918)12月制定公布された大学令にもとづいて大正9年(1920)2月早稲田大学の昇格を機に、学科目の名称変更が大幅に行われるが、商業作文(英語)は大正10年(1921)に商業英語に名称を改められて、これが昭和18年(1943)まで続いた。戦局に鑑みて、昭和19年(1944)に商学部の内容に刷新が施され、この年度に商業英語が学科配当表から消えた。しかし翌20年(1945)に第二次大戦が終り、その10月に学園の授業が再開したとき、貿易英語という新しい名称で再び学科配当表に現われて今日に至っている。商業英語は、武信由太郎、勝俣銓吉郎、伊地知純正、中島正信が商学部で、前田定之助が専門部商科において担当したのであるが、これについては別稿を参照されたい。<sup>7)</sup> 第1表においては煩雑を避けるために、商業作文(英語)、商業英語、貿易英語をそれぞれの名称で最初に設けられた年度にのみ記載し、他の年度には省略した。

3. 明治37年発行の「早稲田大学規則一覧」に掲載されている設立当時の学科配当表から、貿易取引に広く関係を有する商業科目を拾ってみたが、「早稲田大学第二十三回報告」に明治37・8年におけるこれら諸科目の担当者氏名が記録されているところから、明治38年度にも同じような学科目が配当されていたと思われる。<sup>8)</sup> これによると、第1表中明治37年の欄にある科目については、次の担当者名が明らかである。商業実践(今井友次郎)、商業政策(和田垣謙三、河津暹)、商業作文(英語)(武信由太郎、小林行昌)。その他の科目につ

第1表 商業・貿易実務関係の科目

学年度	学 科 目
明治37年	商業各論(売買・税関・倉庫・海運・保険、他)、外国貿易論、商業政策、商業実践、商業作文(英語)
38—41年	(欠)
42—43年	売買論、税関倉庫、商業実践、交通論、関税政策
44年	売買論、税関倉庫、商業実践、海運、保険、商工政策、関税問題、為替換算法
大正1年	売買論、倉庫論、商業実践、商品及商業地理、海運、保険、為替論、為替換算法(数学)、商工政策、〔随意科目〕関税問題
2年	(欠)
3年	売買論、倉庫論、商業実践、商品及商業地理、保険、為替論、為替換算法(数学)、〔随意科目〕関税問題、国際金融
4年	売買論、倉庫税関論、工業商品論、交通論、保険論、為替換算法、〔セミナーが設けられる〕
5—7年	売買論、倉庫税関論、工業商品論、経済地理、商業政策、交通論、保険論、為替換算法
8年	売買論、倉庫税関論、工業商品論、商業政策、交通論、保険論、為替換算法
9—10年	商業学、経済地理、商業政策、交通論、保険論、為替換算法、商業英語(大正10年より名称変更)
11—13年	商業学、商業経済、経済地理、交通経済、保険学、商業算術(為替計算)
14年	(欠)
昭和1年	商業学、商業経済、商品学、経済地理、交通経済、保険学、商業算術、〔随意科目〕貿易実務、外国為替、国際金融、共同海損
2年	商業学、商業経済、商品学、外国貿易、経済地理、交通経済
3年	商業学、商業経済、外国為替、貿易実務、商品学、貿易事情、経済地理、海上保険、海運経済論
4—7年	商業学、商業経済、外国為替、貿易実務、商品学、貿易経営論、海上保険、経済地理(昭和7年度は欠)
8年	商業学、商業経済、外国為替、売買論、倉庫税関、貿易実務、商業実践、商品論、貿易経営論、貿易及貿易政策、海上保険、経済地理
9—16年	商業経済、外国為替、売買論、倉庫税関、商業実践、商品論、貿易経営論、貿易及貿易政策、海上保険、経済地理
17年	配給論、商業経済、外国為替、倉庫税関、商品論、貿易経営論、日本貿易論、海上保険
18年	配給論、商業経済、指導演習(外国為替、倉庫税関)、商品論、指導演習(貿易経営論、日本貿易論)、海上保険、海運経済論
19年	配給論、物資論、交易論、経済地理
20年	配給論、物資論、指導演習、貿易英語
21—22年	商業経済、貿易経済、商品学、水産経済、海上保険、経済地理、海運
23年	商業経済、貿易経済、貿易経営論、商品学、貿易実務、指導演習、海上保険、海運、経済地理

いては記されていないが、明治42年の大学部商科の学科表によると、商業実践（今井友次郎）、売買論（今井友次郎）、税関倉庫（伊藤重次郎）、海運（伊藤重次郎）、陸運（関一）、関税政策（大隈信常）、商業文（英語）（伊藤重次郎、武信由太郎）が記されている。<sup>41</sup>

4. 明治36年の「早稲田学報」に記載されている新設予定の商科大学教科内容では、第3学年に外国為替論が置かれることになっており、外国貿易論はないが、<sup>42</sup> 明治37年「早稲田大学規則一覧」によれば、第3学年に外国貿易論が置かれている。<sup>43</sup> しかし、上記のごとくその担当者は明らかでない。おそらく最初の第3学年の授業が行われる明治39年までには担当者を決定することにして、学科目のみを記載しておいたのであろう。第1表に示すように、明治38—41年の学科配当に関する資料が手元ないので、明治39年にこの科目の授業が実際に行われたのかどうかは判らない。明治42年以降の学科配当をみても、外国貿易論はない。明治42年に商学部を卒業された大先輩の原安三郎の話では、大隈信常が英国留学から帰り貿易政策を担当したという。外国貿易論の担当者として大隈信常が予定されていたのかも知れないが、その辺はよくわからない。貿易政策または関税政策を担当したが、大正3年大隈首相秘書官となり、教壇を去ったようである。<sup>44</sup> 商学部を新設する準備として、優秀な卒業生を海外に派遣したが、伊藤重次郎はその一人で、ペンシルヴァニア大学のウォートン・スクールで E. R. Johnson に師事して海運論を専攻し、明治40年(1907)に M. A., 翌年(1908)に Ph. D. の学位を取得して帰国した。<sup>45</sup> 彼は、税関倉庫、海運論、商業英語などを教えたが、手元の資料では何時学園を去ったのか判らない。昭和になってからの学科配当表には彼の名前はない。陸運を担当した関一は東京高等商業学校教授で、商学部には講師として教鞭をとられたが、年度半ばにして〔明治42年〕大阪市長に就任した。<sup>46</sup>

5. 明治38年(1905)2月、早稲田大学出版部から「早稲田商業講義」という講義録が発行されるに至ったが、商業学関係の科目では、東京高等商業学校教



授・早稲田大学講師石川文吾が商業通論、売買、保険を執筆し、商業学士小林行昌が倉庫および税関を担当している。経済学関係の科目の中に外国貿易及為替があり、法学博士井上辰九郎が担当している。井上は明治23年秋より早稲田大学に教鞭を執り、明治31年まで教授の職にあったが、後実業界に転じ、講師として引き続いて教壇に立つ。<sup>65</sup> また、商品学（商業学士池本純吉）および商業地理（日本地理・原稜威雄、東洋地理・矢津昌永、西洋地理・池本純吉）が設けられている。商業地理は明治36年から同44年まで高等予科（商科）に置かれていた。明治42—43年度における高等予科の科目および担当者の一部は次の通りである。<sup>66</sup> 商業地理（松村吉則）、商業通論（宮島綱男）、商業算術および簿記（小林行昌）、英文文（伊地知純正）。大正元年の商学部の学科配当表に商品及商業地理という名称で科目が新設され、高等予科の科目は日本商品地理および外国商品地理に変更される。これらの名称から推察されうるように、これは商品学と商業地理を合せたものではなく、商品・原料等の産地を中心に講義する商業地理とみられる。経済地理とは別に、大正4年から8年まで工業商品論が新設された。これは機械や電気製品に関する講義で理工学部教授の中村康之助が担当し、専門部商科では坂口武之助が商品学を担当していた。<sup>67</sup> 大正9年以降商品学の専任担当者が欠けており、いちおう名目は商品学担当ということで大正14年に上坂西三が早稲田大学講師に就任する。<sup>68</sup>

6. 講義録の商業実務に関する科目の一つに、海外商店実務というのがあり、早稲田大学講師今井友次郎が担当している。講義録の科目解説によると、今井はロンドンにて10年近く商業に従事して貿易取引方法を学び、イギリスの商慣習をわが国の実業界に適用移植しようと努め、講義録では、商業文書の方式・巧拙の論評、応接の注意、室内の装置、商品貨物の配合など近代的商売を営むために知らなければならぬ諸般の実務と経営の方法を述べると説明している。<sup>69</sup> 明治37年の商学部創設時から今井友次郎は商業実践、商業会話（英語）、売買論等の科目を担当したが、原安三郎は彼が貿易実務関係のことを教えてい

たと話っている。<sup>40</sup> たしかに、明治時代（特に明治30年代初め頃まで）の貿易取引形態を考えるならば、今井がロンドンにて修業し、商学部にて講じたものは、当時における貿易実務であったといえる。講義録の解説から推察すると、外国貿易及為替では、国際貸借、為替相場変動、貿易政策等を主として講述し、また売買論では売買の本義、売買の区別、目的物、準備、代価、荷物受渡等を主要内容とするので、これらは貿易実務とは直接関係のない科目である。貿易取引に関係ある科目としては税関論があり、貨物の輸出入手続が教えられたが、商館貿易取引においては輸出入通関手続が一番重要な手続であり、これを除いては国内取引と区別がなくなるので、その意味では当時の貿易実務の中心的存在であったのかもしれない。

7. 大正5—7年の頃になると、小林行昌が売買論、倉庫税関論を、伊藤重次郎は交通論、名著研究、英作文を担当している。<sup>41</sup> 工業商品論は前記の中村康之助、経済地理は樋口清策、商業政策は浅川栄治郎が担当である。樋口清策は昭和19年まで商学部、専門部商科、専門学校商科で経済地理を担当した。明治42年度では、法学博士栗津清亮が保険法を講じたが、大正6年の学科配当表では生命保険論と損害保険論に分かれ、宮島綱男が担当している。大正末期には末高信（大正6年卒）および島田孝一（大正8年卒）がペンシルヴァニア大学のウォートン・スクールにおける留学から帰国し、末高信は保険経済、島田孝一は交通経済を担当した。昭和元年には随意科目の一つに共同海損が設けられたが、昭和3年度から海上保険と海運経済論が新設され、前者を倉田庫太（講師、帝国海上取締役）が、後者を寺島威信が受持ち、末高信は保険経済のほかに生命保険及社会保険、火災保険等を、また島田孝一は交通経済のほかに鉄道経済論、電車及自動車論等を担当する。寺島は昭和3年から同12年まで教壇に立ち、昭和13年から同18年までは倉田が海上保険および海運経済論を講じた。葛城照三は昭和9年に早稲田大学講師として商学部で商業数学、名著研究、指導演習を受持ったが、昭和15年から専門部商科にて海上保険および海運を担当し、

昭和21年以降商学部において海上保険論を持つにいたる。

8. さて売買論は他の学校においては商業通論または商業学の一部において論じられていたが、早稲田大学商学部においては各論の一科目として最初からその講座が設けられていた。<sup>24</sup> 前記のごとく、当初は今井友次郎がこれを担当したが、そのあとを小林行昌が受け継いでいる。彼の売買論では、先ず総論において売買の観念、利弊、沿革、方法および法制等を論じ、各論として売買の各種分類、売買関係当事者の機能と権利・義務、売買の目的物と引渡、代金と決済、商品の仕入・販売方法、市場売買、外国売買および売買に関する立法・政策が展開され、他に類例のない精緻な体系を整えていた。<sup>25</sup> 外国売買については、外国売買の特徴、わが国の貿易業者とその商策、輸出手続、輸入手続、販路開拓策および海外契約が講述された。売買と並んで、倉庫と税関も各論として設けられ、倉庫論では、総論、倉庫の業務、欧米諸国における倉庫業の現況、倉庫の経営、保税倉庫について論じられ、<sup>26</sup> また税関論では、税関、関税および諸収入、貨物の輸出入通関手続、積戻・運送および収容、船舶出入港手続、異議および訴願、自由港、税関手続と国際会議、航空と税関などがその主要内容となっている。<sup>27</sup> 大正7年の大学令により、大正9年に早稲田大学が新制度における大学に昇格したとき、学科目の変更が行われ、売買論、倉庫税関論などは商業学に改められた。大正11年には商業経済が新設され、商業学とともに小林行昌の担当であるが、昭和8年には売買論と倉庫税関論が復活し昭和16年まで継続される。他方、商業学は昭和9年に商学部の学科配当表からなくなるが、専門部商科と専門学校商科では昭和18年まで商業学が置かれており、小林行昌と上坂酉三の二人が受持った。更に昭和19—20年には商業経済もなくなり、昭和17—20年には配給論が置かれ、小林行昌が担当したが、昭和19年彼の没後は上坂酉三がこれを受け継いだ。戦争が熾烈となり戦局の悪化に伴って、一般に商学部における商業関係の科目が著しく制限され、工業関係の科目に重点が置かれるようになった。<sup>28</sup>

9. 上坂西三は大正3年(1914)に早稲田大学高等予科に入学し、翌4年大学部商科に進学した。浅川栄治郎がアントワープ商科大学の留学から帰り、大正4年に商業経営学および商業政策を担当したが、彼の講義にひかれた上坂は3年度には浅川の指導演習をとるつもりでいた。しかし大正6年(1917)の早大騒動で浅川が退任したので、上坂は小林行昌のセミナーに参加し、「対支水産輸出貿易の研究」という卒業論文を書いて大正7年(1918)3月に商学部を卒業した。彼は同年4月増田貿易株式会社に入社し、欧米向け水産缶詰の輸出に従事したが、当時新しい貿易取引方法に関する手引書の類が皆無に等しい状態なので、後進に指針を供すべく、自己の経験にもとづいて輸出貿易手続の本を2冊著し、また「商事研究」や「銀行研究」という専門誌に貿易に関する論文を寄稿し続けた。このような業績が小林行昌の目にとまり、彼の推薦により、上坂西三は大正13年(1924)10月に専門部商科で貿易実務の科外講義を数回連続して行う。そして翌14年4月には田中穂積の推挙により、上坂西三は早稲田大学講師として大学部商科で商品学を、専門部商科では商品学および英書講読を担当し、特別講義として貿易実務を受持った。<sup>4)</sup> 随意科目ではあるが、ここに貿易実務が初めて学科配当表にあらわれたのである。

大正15年4月、上坂西三は早稲田大学留学生としてイギリスとドイツに各1年滞在し、昭和3年4月に帰国し、5月から商学部では商品学、貿易事情、英書講読および特殊研究を、専門部商科では英語、専門学校商科では商業学を担当した。彼の担当した講座は、商品学および商業学(通論)のほかに、昭和4年から貿易経営論、同8年には貿易及貿易政策が加わり、また昭和9年から専門部商科にて貿易実務・実習、昭和11年から専門学校商科にて外国為替を、そして昭和17年には日本貿易論というように拡大していったが、第二次大戦勃発により上記のごとく一般に商業関係の科目は縮小される傾向にあり、昭和19年には、物資論と交易論を受持ったが、同年小林行昌の没後、配給論を受け継いだ。戦後、商業経済、商品学、貿易経営論が復活したが、昭和23年に商学部に

において貿易実務という科目が設けられ、昭和34年3月定年制により早稲田大学教授を退職するまで上坂西三がこれを担当したのである。

10. 上坂西三といえば貿易研究では当代の第一人者であり、<sup>88</sup>貿易実務といえば上坂西三といわれるくらいに斯界における彼の令名が高く、早稲田大学のほかに、日本大学、立教大学、中央大学、明治大学、東京大学、上智大学において講師として教鞭を執った。しかし、彼がいわゆる貿易実務という名称の科目を担当したのは、上記のごとく、戦前では昭和9年から専門部商科においてであり、商学部では昭和23年からであった。第1表に示すごとく、戦前にも商学部に貿易実務という科目が設けられていたが、担当者は上坂西三ではなかった。東京商科大学および東京帝国大学において、トレバー・ジョーンズ(Trevor Johns)というイギリス人講師が貿易実践を教えていたので、彼に依頼して商学部で外国貿易を担当してもらったのは昭和2年(1927)のことである。この科目は翌3年からは貿易実務という名称に改められて、これが昭和8年(1933)まで続いた。昭和8年に商業実務が新設され、これもトレバー・ジョーンズの担当で、翌9年に商業実践と名称変更され、貿易実務がなくなった。彼は昭和16年(1941)まで商業実践を教えたが、第二次大戦勃発のためイギリス人である彼は日本を去らねばならなかった。

ここで一言彼の講義内容について述べてみたい。彼の教えを受けた卒業生の話によると、トレバー・ジョーンズは彼の著書<sup>89</sup>を使用して英語でゆっくりと講義を行い、学生にノートをとらせてこれを定期的に提出させるという教え方であった。教授方法は別として、彼が商学部で教鞭を執った時代(1927—41)はすでに直接売買形態で貿易が行われている時代であるにもかかわらず、彼の講義は、著書ならびにノートによると、貿易取引が輸出問屋または輸入問屋によってコミッション・ベースで営まれるのを常態とすることを前提として始まり、先ずその例として、ボンベイにあるインド人の会社が同市にあるイギリス人商會と契約を結んでマンチェスターの製造業者からワイシャツ地を仕入れる

という内容の買付委託契約書を掲げている。<sup>64</sup> また講義の中心である各種貿易書類の説明も、ロンドンの Smith Brown 商会在日本から商品を輸入するにあたり、横浜に営業所をもつイギリス人の会社 Jackson 商會に注文を発し、この当事者間に信用状開設から船積案内発送までの手続の順序にしたがって述べられている。これは19世紀末までの商館貿易時代の取引形態である。これらの点から、彼は貿易取引の経験が全く無いか、またあっても商館貿易時代のものであると想像されるが、経験の有無はともかく、貿易取引に関する知識と正しい理解を欠いたようで、彼の著書には随所に明白な誤りがみられる。<sup>65</sup> 彼がどのような学歴・職歴を持ち、またどのようにして東京帝国大学、東京商科大学および早稲田大学において貿易実務の講義を担当するにいたったのか、彼の著書を見ると全く不可解に思われる。当時における貿易実務に関する一般的な理解の低さを示すものと解してよいのであろうか。

この点に関連して、中井省三（神戸市立外国語大学）の言葉を引用して本節を閉じたい。<sup>66</sup>「邦語文献もまた多くは実務論の域を脱していない状態にある。この点に関し、かつて今から十数年前に上坂西三博士が『貿易取引条件に関する文献』の中で『知名の商学者から一顧も払われなかった』領域であり、『外国貿易に対する依存性の特に強い我国における斯くの如き実状は、これを商学界の怠慢と言っても決して過言でない』と述べられている。この実状は十数年後の今日においても少しも変わっていない。この間にあって、四十年の久しきに互り、孤高を持して、独り斯の道に専念して来られた上坂西三博士の存在は学界の珍とするところで、博士が半生の精魂を傾けられた成果による『貿易慣習』の研究とともに、われらは真にこれを徳としなければならない。また業界人である浜谷源蔵氏（注、商学博士、現在日本大学教授、早稲田大学講師）がその旧著に爾来数度の改訂を加えられた『最近貿易実務誌』のあることを記したい。これらを除いては殆ど文献の見るべきものがない。」

#### 4. 著作・文献年譜

1. 小林行昌博士の年譜および著書(項目別)を次に挙げる。<sup>83)</sup>

- 〔年譜〕 明治9年(1876)11月 長野県に生る  
 33年(1900) 東京高等商業学校専攻部卒  
 37年(1904) 早稲田大学講師  
 44年(1911) 早稲田大学教授  
 昭和6年(1931) 商学博士  
 19年(1944)6月 急性肺炎のため逝去(69歳)

〔著書〕 小林行昌博士の論文のうち早稲田商学掲載のものについては、「早稲田商学総目次」(早稲田大学創立八十周年記念論文集 別冊, 昭和37年10月発行)を参照されたい。

- (1) 商業英語 明治37年 英和商用文教科書  
 43年 商業英語(石川文吾と共著)
- (2) 商業数学 明治40年 高等商業数学(前編)  
 42年 高等商業数学(後編)  
 44年 商業算術(上・下巻)  
 大正2年 高等商業数学(全本)〔第6版〕  
 3年 商業算術(高等実業実践講座第三編)  
 8年 高等商業数学(上・下巻)〔第11版, 昭和4年に第16版発行〕
- (3) 商業売買・配給論 明治37年 最近英国商業実務(下村精一と共著)  
 大正5年 商業売買(上巻)〔初版, 大正8年再版〕  
 9年 商業売買(下巻)〔初版, 同年10月訂正再版〕  
 9年 商業売買(上巻)〔訂正3版〕  
 11年 商業売買(下巻)〔訂正3版, 大正13年訂正4版〕

- 11年 実践貿易提要（栗原一平と共著）
- 昭和3年 改訂 商業売買（上巻）〔初版〕
- 5年 売買論（商学全集）
- 8年 商品配給論
- 11年 大日本商業実践
- (4) 倉庫・税関 明治42年 倉庫及税関
- 大正6年 倉庫論〔第6版，大正11年第8版，大正10年第10版〕
- 6年 関税論（早稲田大学政治経済講義）
- 13年 税関論〔改訂初版，大正15年増補再版〕
- 昭和3年 税関論〔全部改訂4版〕
- 5年 関税と物価〔学位論文〕
- (5) 商業政策 大正11年 内外商業政策（上巻）
- 昭和4年 改訂 内外商業（上巻）〔第4版〕
- 7年 再訂 内外商業政策（上巻）〔第5版〕
- 16年 内外商業政策
- (6) 外国為替 昭和7年 外国為替
- 8年 改訂 外国為替
- 10年 増補改訂 外国為替
- 11年 理論実務 外国為替
- 13年 改訂理論実務 外国為替
- 13年 外国為替の常識

2. 上坂酉三博士の年譜および著書（項目別）を次に挙げる。<sup>24</sup>

- 〔年譜〕 明治21年（1888）12月 宮城県に生る
- 大正7年（1918）3月 早稲田大学大学部商科卒
- 7年（1918）4月 増田貿易株式会社入社
- 14年（1925）4月 早稲田大学講師



昭和3年(1928)	早稲田大学助教授
4年(1929)	早稲田大学教授
10年(1935)	商学博士
34年(1959)	定年制により早稲田大学教授を退職

〔著書〕 上坂西三博士の雑誌論文(大正11年—昭和33年)については、「上坂西三先生古稀記念論文集」(早稲田商学第140・141合併号, 昭和34年5月, 439~452頁)を参照されたい。

- (1) 貿易実務 大正11年 輸出貿易手続詳解  
 12年 委託貿易の研究  
 14年 輸出貿易実務誌  
 昭和2年 輸出信用の保険並保証  
 4年 外国貿易の手続  
 9年 貿易実務  
 11年 輸出信用補償論  
 11年 標準外国貿易実践(中等教科書)  
 14年 戦時貿易実務の知識  
 28年 貿易実務(新版)  
 29年 貿易実務(商業高等学校教科書)  
 40年 新訂貿易実務(貿易研究第三部)
- (2) 貿易経営 昭和5年 貿易経営論  
 10年 貿易経営実務  
 24年 貿易経営論(昭和24年版)
- (3) 貿易売買・ 昭和9年 海上売買論〔学位論文〕  
 償習 10年 CIF 売買の国際統一規則  
 11年 統一国際売買規則の研究  
 12年 貿易用語の解釈に関する国際規則

- 13年 貿易取引条件の研究  
 18年 貿易慣習の研究  
 24年 外国貿易論（売買論）  
 26年 貿易（商業経営シリーズ）  
 29年 貿易売買の知識  
 30年 国際貿易条件基準  
 34年 貿易慣習（貿易研究第一部）  
 35年 貿易契約（貿易研究第二部）
- (4) 貿易概論 昭和14年 貿易の常識  
 17年 貿易講話  
 17年 国防貿易論（共著）  
 18年 交易概説（資料叢書，57）  
 22年 国際貿易講話  
 24年 貿易論（総論・政策論・日本貿易論）  
 28年 貿易概論
- (5) 商品学 大正15年 商品学概論  
 昭和5年 重要商品学  
 8年 最新商品学概論  
 13年 新訂商品学概論  
 16年 商品学（朝日新講座）  
 24年 商品学概論（新版）  
 28年 商品学序論（早稲田選書）  
 31年 商品学概論（新版）
- (6) 商業概論 昭和5年 商業概論  
 12年 最新商業概論  
 22年 商業概論（新版）

- 33年 体系商業学（共著）
- (7) その他 昭和24年 中国交易機構の研究（各務記念財団研究補助）
- 34年 鶏肋集（研究・断想）
- (8) 辞典 昭和26年 商業用語辞典  
（著書のみ） 30年 商業小辞典  
39年 貿易実務辞典  
42年 増補貿易実務辞典  
46年 貿易用語辞典

3. 次の年度別洋書文献目録（1890—1935）は主として早稲田大学図書館，商学部教員図書室，ペンシルヴァニア大学の Lippincott Library（ウォートン・スクール附属図書館）の図書目録にもとづいて作成した。これ以外の資料によるものも含まれるが，発行年度不明のものを除いた。もちろん完全なものを本稿に載せることは最初から考えなかった。しかし，前記両博士の著作目録と合せて，一般に海運，保険，金融などの商業制度に関する研究，そして特に貿易取引や貿易経営など貿易の私経済的研究について，その分化・発達過程をこれらの著作・文献年譜に見ることができる。貿易実務関係の科目変遷の説明不十分な点をこの年譜で多少なりとも補足しうることを願う次第である。

- 1890(明23) Skelton, H. P., *English Commercial Correspondent*, London.
- 1899(明32) Hooper, F. & Graham, J., *Modern Business Methods, the Home Trade*, 3rd ed., London.  
Hooper, F. & Graham, J., *Import and Export Trade or Modern Commercial Practice*, London, 1st ed. (2nd ed., 1901, 3rd ed., 1908, 4th ed., 1920, 1924)
- 1901(明34) Duckworth, *Epitoms of the Law Relating to Charterparties and Bills of Lading*.
- 1904(明37) 早稲田大学商学部開校
- 1905(明38) Huebner, S. S., *Marine Insurance in the United States*,

- New York.
- 1906(明39) Johnson, E. R., *Ocean and Inland Water Transportation*, New York. (1906, 1911, 1920)
- Kauffman, *Bills of Lading as Collateral for Loans*.
- 1908(明41) Cody, S., *How to Do Business by Letters*, 13th ed., Chicago.
- Glaser, F., *Die Börse*, Frankfurt / Main, 1908.
- 1909(明42) Grebby, J. K., *English Correspondence*, Tokyo.
- 1912(大1) Sonndorfer, R., *Die Technik des Welthandels*, Wien und Leipzig.
- Templeman, F., *Marine Insurance: Its Principles and Practice*, 3rd ed., London.
- U. S. Government, *Factors in Foreign Trade*, Washington.
- 1913(大2) U. S. Government, *Foreign Credit*, Washington.
- 1914(大3) Bennett, W. R., *History and Present Position of the Bill of Lading as a Document of Title to Goods*, London.
- Osborne, R. S., *Modern Business Routine, Vol. I, Home Trade*, London. (1923 ed.)
- Osborne, R. S., *Modern Business Routine, Vol. II, Import and Export Trade*, London. (1918 ed.)
- 1915(大4) Johnson, E. R., Huebner, G. G., Van Metre, T. W., and Hanchett, D. S., *History of the Domestic and Foreign Commerce of the United States*, New York.
- Lazarus, *Treatise on the Law Relating to the Insurance of Freight*.
- 1916(大5) Dudley, F. M., *The Exporter's Handbook and Glossary*, London.
- Fowler, J. F., Richards, C. A., and Talbot, H. A., *Export Houses*.
- Mahony, P. R., *The Export Salesman*.
- Pratt, E. E., Porter, E. C., and Kennedy, P. B., *Export Policies*.
- Santihano, J., *Banking Service for Foreign Trade*.
- Withers, H., *International Finance*.

- 1917(大6) Gow, W., *Marine Insurance*, 4th ed.  
Zimmerman, E. W., *Foreign Trade and Shipping*.
- 1918(大7) Hough, B. O., *Practical Exporting*, New York.  
Johnson, E. R., *Principles of Ocean Transportation*, New York.
- 1919(大8) Chaffe, *Cases on Negotiable Instrument*.  
National Foreign Trade Council, Inc., *Definitions of Export Quotations*, in Report of National Foreign Trade Convention, 1919.  
Savay, N., *Principles of Foreign Trade*, New York.  
Univ. of Pennsylvania, *Marine Loss Adjustments*.  
Vedder, G. G., *American Methods in Foreign Trade*, New York.  
Wolfe, A. J., *Theory and Practice of International Commerce*, London & New York.
- 1920(大9) Annin, R. E., *Ocean Shipping*.  
Brown, *International Trade*.  
Poor, W., *American Law of Charter Parties and Ocean Bills of Lading*, New York.  
Preciado, A. A., *Exporting to the World*, New York.
- 1921(大10) Escher, F., *Foreign Exchange Explained*.  
Huebner, G. G., *Ocean Steamship Traffic Management*.  
I. C. C., *Export Credit* (National Schemes), Br. 1, Paris.  
I. C. C., *Trade Terms* (London Congress—1921), Br. 8, Paris.  
I. C. C., *Commercial Arbitration* (London Congress—1921), Br. 13, Paris.  
Martin, C. C., *Export Packing*.  
Taussig, F. W., *Selected Readings in International Trade and Tariff Problems*.  
Whitaker, A. C., *Foreign Exchange*, New York.
- 1922(大11) Edwards, G. W., *Foreign Commercial Credits*.  
Gibb, A. D., *Sale of Goods on C. I. F. and F. O. B. Terms*, London.

- Harvey, A. S., *Import and Export Trade*.
- Huebner, S. S., *Marine Insurance*, New York.
- Lowndes, R., *General Average*, 6th ed.
- Rosenthal, M. S., *Technical Procedure in Exporting and Importing*, New York.
- Tosdal, H. R., *Problems in Export Sales Management*, New York.
- Ward, W., *American Commercial Credits*, New York.
- Wyman, W. F., *Export Merchandising*, New York.
- 1923(大12) Brown, D. L., *Export Advertising*.
- Congdon, *General Average*.
- Cook, A. B., *Financing Exports and Imports*.
- De Haas, J. A., *Foreign Trade Organization*, New York.
- Frank, *Oriental Trade Methods*.
- Nagle, P. E. D., *International Communications and the International Telegraph Convention*, U. S. Bureau of Foreign and Domestic Commerce, Miscellaneous Series No. 121., Washington.
- Poole, G. C., *Export Credits and Collections*.
- Propson, C. F., *Export Advertising Practice*.
- Schär, J. F., *Allgemeine Handelsbetriebslehre*, 5 Aufl., Leipzig.
- Walter, H. C., *Modern Foreign Exchange*.
- 1924(大13) Cross, Ira B., *Domestic and Foreign Exchange*.
- Edwards, G. W., *International Trade Finance*.
- Eldridge, W. H., *Marine Policies*, 2nd ed.
- Flux, A. W., *The Foreign Exchange*.
- Keeley, J. F., *Packing for Foreign Markets*, U. S. Bureau of Foreign and Domestic Commerce, Trade Promotion Series No. 1.
- Maughan, C., *Trade Term Definitions*, London.
- Zimmerman, E. W., *Ocean Shipping*.
- 1925(大14) Bensa, *Early History of Bills of Lading*.

- Breyer, R. F., *Agents and Contracts in Export Trade*.  
 Breyer, R. F., *Export Trade*.  
 Hodgson, A. J., *Shipping Documents*. (1929 ed.)  
 Hough, B. O., *The Export Executive*.  
 Spaulding, W. F., *Foreign Exchange and Foreign Bills*.  
 1926(昭1) Dunn, R. W., *American Foreign Investments*.  
 Edwards, G. W., *Investing in Foreign Securities*.  
 Goitein, H., *The Law as to C. I. F. Contracts*, 2nd ed.,  
 London.  
 I. C. C., *Trade Terms*, 2nd ed., Paris.  
 Marcossou, Isaac F., *Caravans of Commerce*.  
 Philips, H. W., *Modern Foreign Exchange and Foreign  
 Banking*.  
 1927(昭2) Brown, F. J., *Cable and Wireless Communications of the  
 World*.  
 Conte, R., *Report on International Industrial Ententes*, I. C.  
 C. Br. 46, Paris.  
 Davies, A. E., *Investments Abroad*,  
 Fitzgerald, P., *Industrial Combinations in England*, London.  
 Hellauer, J., *Kaufverträge*, Berlin / Wien.  
 Ioannou, *Export Duties of the World*.  
 League of Nations, *Cartels and Combines*.  
 League of Nations, *Cartels and Trusts and Their Develop-  
 ments*.  
 League of Nations, *Review of Legislation on Cartels and  
 Trust*.  
 Liefmann, R., *International Cartels, Combines and Trust*,  
 London.  
 Phelps, Clyde W., *The Foreign Expansion of American  
 Banks*.  
 Roorbach, G. B., *Import Purchasing ; Principle and Practice*.  
 Roorbach, G. B., *Import Purchasing and Problems*.  
 U. S. Government Printing Office, *Packing for Domestic*

- Shipment*, Washington.
- 1928(昭3) Dunnage, J. A., *Manual of Exporting*.  
 Friedman, W. J., *International Radiotelegraph Conference of Washington 1927*.  
 Hart, C. S., *Foreign Advertising Methods*.  
 Hotchkies, *A Manual on the Law of Bills of Lading and Contract of Shipment*.  
 Norton, H. K., and Cassel, G., *Foreign Investments*.  
 Poole, F. W. S., *The Marine Insurance of Goods*.  
 Pratt, E. E., *International Trade in Staple Commodities*.  
 U. S. Bureau of Foreign and Domestic Commerce, *The International Cartel Movement* (T. I. B. No. 556).
- 1929(昭4) Bergh, L. O., *Drafts in Foreign Trade*.  
 Bouffier, W., *Die Klauseln im Kaufvertrag nach den deutschsprachlichen Usancen kaufmännischer Vereinigungen und Korporationen in Mitteleuropa*, Wien.  
 Cole, S. D., *The Hague Rules, being the Carriage of Goods by Sea Act 1924*, London.  
 Dover, V., *Handbook to Marine Insurance*, 3rd ed.  
 I. C. C. *Trade Terms*, Br. 68, Paris.  
 Johnes, Trevor, *Foreign Trade Documents*, Tokyo. (1938 ed.)  
 Notz, W. F., *Representative International Cartels, Combines and Trusts*, U. S. Bureau of Foreign and Domestic Commerce, Trade Promotion Series 81.  
 Tribolet. L. B., *International Aspect of Electorical Communications in the Pacific Area*.  
 Winter, W. D., *Marine Insurance; Its Principles and Practice*, 2nd ed.
- 1930(昭5) Eldridge, F. R., *Financing Export Shipments*.  
 Finkelstein, *Legal Aspect of Commercial Letters of Credit*.  
 Huebner, G. G., and Kramer, R. L., *Foreign Trade; Principles and Practice*. (Rev. ed. in 1942)



- Hurd, H. R., *Law and Practice of Marine Insurance*.  
 Winkler, H., *Das Cif-Geschäft*, Diss. Frankfurt / Main.
- 1931(昭6) Claro, G. and Crump, N., *The ABC of the Foreign Exchange*,  
 9th ed.  
 Hellauer, J., *Kalkulation in Handel und Industrie*, Berlin /  
 Wien.  
 Philadelphia Commercial Musium, *International Trader's  
 Handbook*, Philadelphia.  
 Skalka, W., *Handelsgebräuche der Hamburger Getreidebörse*,  
 2. Aufl., Hamburg.
- 1932(昭7) Gutteridge, H. C., *The Law of Bankers' Commercial Credits*,  
 1st ed., London.  
 Hodgson, A. J., *The Carriage of Goods by Sea Act 1924*,  
 London.
- 1933(昭8) Halbich, A., *Papier-Handelsgebräuche und ihre Bedeutung  
 für der Wirtschaftspraxis*, Diss., Frankfurt / Main.  
 Hvidt, V., *Banker's Credit*.  
 I. C. C., *Uniform Customs and Practice for Commercial  
 Documentary Credits*, Br. 82, Paris.  
 Roorbach, G. B., *Problems in Foreign Trade*, New York.
- 1934(昭9) Burn, B., *Codes, Cartels and National Planning*.  
 Einzig, P., *Exchange Control*.  
 Ellinger, B., *Credit and International Trade*.
- 1935(昭10) De Haas, J. A., *The Practice of Foreign Trade*.  
 Horn, P. V., *International Trade, Principles and Practice*.  
 Kapferer-Schwenzner, *Exportbetriebslehre*, Mannheim/Ber-  
 lin /Leipzig.  
 Pribram, K., *Cartel Problems*.

注(1) 商学部史(1), 早稲田商学, 第234・235号, 昭和48年3月。商学部史(2), 同第241号,  
 昭和49年3月。商学部史(3), 同第249号, 昭和50年3月。以下, 商学部史(1), (2),  
 (3)として引用する。

(2) 猪谷善一「ベルギー・アンヴェルス商科大学と日本」商学部史(2), 3頁。

- (3) 猪谷, 前掲論文, 4~7頁。
- (4) 同上, 10~13頁。
- (5) 賀屋俊雄「海上売買研究及び貿易実務」昭和29年, 6~7頁。
- (6) 本稿の終りに掲げた洋書文献目録中, 明治23年(1890)のほか比較的早期に商業英語関係の文献がみられる。
- (7) 伊東克己「商学部の英語と三人の英作文家」商学部史(3), 75頁。
- (8) 商学部史(1), 34頁。
- (9) 早稲田学報(明治43年), 商学部史(2), 33頁。
- (10) 早稲田学報(81号, 明治36年), 商学部史(1), 99頁。
- (11) 商学部史(1), 34頁。
- (12) 大隈信常については、「座談会原安三郎先生を囲んで」商学部史(3), 105—106頁参照。大隈信常は明治32年東大政治科卒業後三井物産株式会社に入社し, 明治35年大隈の養子となり, 学園から欧米留学に派遣され, 明治40年に帰国して主として英語を教えた。大正3年大隈首相の秘書官となり, 大正11年大隈重信の没後襲爵し, 貴族院議員となり, 大正12年に早稲田大学名誉総長になる。
- (13) 学位取得年度はペンシルヴァニア大学同窓会名簿(昭和33年11月15日現在)による。同名簿によると, 当時伊藤重次郎は東洋大学教授で, 文京区原町17番地に居住した。商学部史(3), 113頁, 114頁, 121頁参照。
- (14) 商学部史(3), 105頁。
- (15) 法学博士井上辰九郎「早稲田の17年前」商学部史(2), 133頁。
- (16) 「早稲田学報」(188号, 明治43年), 商学部史(3), 192—200頁。
- (17) 商学部史(3), 4頁。
- (18) 商学部史(3), 5頁。
- (19) 商学部史(1), 45頁, 171頁。
- (20) 商学部史(3), 105頁。
- (21) 伊藤重次郎が名著研究で使用したテキストは, Johnson, E. R., *Ocean and Inland Water Transportation*, New York, 英作文のテキストは Grebby, J. K., *English Correspondence*, Tokyo である。
- (22) 小林行昌「商業売買」(上巻), 大正5年, 序文1頁。
- (23) 小林行昌「商業売買」(上巻), 大正5年, 同「商業売買」(下巻), 大正9年, 東京宝文館刊。上下巻合計約900頁の大著である。彼の学友である東京高等商業学校教授石川文吾の著書に「売買論」(明治39年, 大倉書店刊)がある。これは石川が早稲田商業講義に執筆した売買論をもとに書かれたものである。
- (24) 小林行昌「倉庫論」明治42年初版, 大正12年訂補8版, 巖松堂書店刊。
- (25) 小松行昌「税関論」大正13年初版, 大正15年増補再版, 昭和3年全部改訂4版,

巖松堂書店刊。この内容は昭和3年の改訂版によるものであるから、大正7年頃の講義内容とは若干異なるものと思われる。

- (26) 昭和19年商学部刷新要綱参照。
- (27) 早稲田商学, 第140・141合併号, 昭和34年5月, 432頁。商学部史(3), 5頁。大正14年3月専門部商科教授会資料。この時の英書講読に使用したテキストは, Osborne, R. S., *Modern Business Routine, Vol. II, Import and Export Trade*, London, 1918である。
- (28) 中井省三「貿易と用語規則及取引約款」昭和30年。
- (29) Johnes, T., *Foreign Trade Documents*, Tokyo, 1st ed., 1929 and 2nd impression 1938.
- (30) *Ibid.*, pp. 1-4.
- (31) 銀行(送金)為替の例として, 振出人が輸入者(買主)で一覽後90日払い条件の為替手形を掲げたり(12頁), 取立為替と荷為替手形の説明(13—4頁), 取消不能確認信用状で確認銀行宛に手形振出を指図しているのに(91頁), これにもとづいて振出された為替手形は開設銀行宛となっており(106頁), しかも輸出者の船積案内では輸入者宛に手形を振出したのでその引受・支払をよろしく頼む旨が書かれている(115頁)といった具合である。
- (32) 中井省三, 前掲書, 2頁。
- (33) 佐藤孝一「小林行昌—商業学の先覚」(「近代日本の社会科学と早稲田大学」昭和32年, 所収, 299—302頁)及び巻末の年譜参照。同書では, 明治30年東京高等商業学校専攻部卒となっているが, 前掲猪谷論文では明治33年専攻部卒となっている。商学部史(2), 8頁参照。
- (34) 上坂西三先生古稀記念論文集(早稲田商学, 第140・141合併号), 昭和34年5月, 431—452頁参照。  
(1975年11月)